

# 令和7年度第1回長岡京市部活動地域展開検討委員会

## 1 日 時

令和7年7月24日（木）午後5時00分～6時30分

## 2 場 所

長岡京市役所 新庁舎 会議室401

## 3 出席者（順不同、敬称略）

委 員 中村 和雄、大島 嘉人、三古 剛、小國 俊之、森 昌彦、田中 進  
小山 慎也

欠席委員 なし

事務局 教育長 西村 文則、教育部長 中島 早苗  
教育部次長兼文化・スポーツ振興課長 宮崎 隆弘、  
学校教育課長 渡邊 まどか、学校教育課総括指導主事 阿部 隆、  
学校教育課指導主事 安池 美希子、学校教育課学校教育指導主事 縄手 健也、  
スポーツ振興係長 鈴木 忠範、文化振興係長 木村 映美、  
スポーツ振興係主事 三宅 智也、スポーツ振興係主事 江森 仁耶

傍聴者 なし

## 4 内 容

### 1 開会

- (1) あいさつ
- (2) 委員自己紹介
- (3) 会長選出
- (4) 委員会の目的、進め方

### 2 報告事項

- (1) これまでの経過 国・府の動向、本市の取り組み（アンケート、体験会）

### 3 協議事項

- (1) 各種課題
- (2) 今後の取り組み

### 4 その他

## 5 閉会

## 5 議事等の内容

### 1 教育長あいさつ

### 2 会長選出・あいさつ

### 3 協議・報告事項

#### 1 報告事項

- ① これまでの経過 国・府の動向、本市の取り組み（アンケート、体験会）

#### 2 協議事項

- ① 各種課題

事務局より説明。

委 員：地域クラブチームという表現はどういうものを指しているのか。

事 務 局：部活動以外の団体を包括的に指している。

委 員：アンケート結果の中学1、2年生のところでクラブチームに所属が15%、小学校で所属していたが13%となっている。小学校5、6年生では47%が地域のクラブチーム等に所属している。この差は何か？

事 務 局：中学校に入るとクラブチームから部活動に移る子どもが多く、結果的に中学校では少なくなる。

委 員：「地域」という表現をするならば、少年団と営利目的のクラブチームを別にしないといけないのではないか。地域の意味が曖昧で、何をもって地域とするのかわからない。

委 員：おっしゃる通り、部活動以外のことだと思うが、その辺を整理しないと話がまとまっていかないと思う。

委 員：協議によってゴールが違う。団体か個人かの違いもあるし、本気でやりたい子と楽しみたい子で違ってくると思うので、両方とも用意してあげingことを考えていかなければならないと思う。

委 員：生徒のニーズも様々で、保護者のニーズも様々なので、みんなが満足するには様々な方向性をもったものがあるかもしれないと思う。いまは学校の部活動とそれ以外で比較すると差があるが、話題にあがったように、営利目的と人を集めて指導していく部分で差が出てくると思うので、そこも整備しながら地域クラブとしてどのような形を求めていくのかを考えていければ

と思う。

事務局：国では今後、民間クラブ等との区別のために地域クラブ活動の定義、要件等を定め、地方公共団体が認定したものについて支援していこうとなっている。国がまだ今後定めていくという段階なので、その動向を見ていきたい。

委員：ここで検討していく方向性を考えたときに、どういう意味で地域のスポーツクラブという形を使われるのか気になったのでお聞きした。

委員：営利目的といっても色んなパターンがある。地域クラブといってもほぼボランティアのようなクラブもあれば営利まではいかなくても保護者負担のあるクラブもあるので、そのあたりも掴みながら対応していく必要があると思う。

委員：ボランティアですべてやるのは無理な話と思う。色んな団体、クラブチームは、あらゆる面でお金のお話が出てくる。他所の地域で活動しているチームがお金の匂いをかぎつけて絡んでくるとややこしくなる。この辺、考えないといけないと思う。

委員：本日もある競技大会の準決勝・決勝に行ってきたが、ベンチに座っているほとんどはクラブチームの選手であった。学校の生徒も出ているが、顧問は引率しているだけで指導はクラブチームが行っている。教員は行かないといけないのかという感覚でないかと思う。熱心に指導したくても専門的にできないし、時間も限られていてできないのが現状と思う。少しでも携われる場所があれば参加したいという教員は案外と多いと思う。また、クラブチーム主体になると学校での日常生活を横着する子もいる。そこも不安材料になる。

委員：部活動が持っている教育力をクラブチームに移行したときに発揮できるのかどうかは課題になると思う。

委員：この会議の目的は、部活動の地域展開ができるかどうかを検討するのか、やってみようという検討なのか。実際に展開しようということならば議論の内容を傾けていった方がいいと思う。アンケートの結果から、子どもたちがイメージしているのは部活と同じ質を求めている子が多いのか少ないのか？

事務局：具体的に聞いたわけではないが、イメージとしては多くの子が今の部活に満足している。今後、地域展開していくのであれば、専門的な指導が受けられるという期待が半分とどんな人が来るかわからない、他所の学校にいかねばならないのかという不安が半分と感じられる。それに対してどうしてい

くのかを皆さんから意見や支援をいただきたい。

委員：部活を地域に展開するときに、その部活の質をそのまま求めているのか。アンケートでは部活を楽しみたいという回答が多いが、どのくらいが部活の質を求めているのか。今の子どもはコロナの影響もあって運動をする体がない子が多く、中にはペットボトルが開けられない女の子も見たことがある。今の子に必要なのは雑巾がけや家の手伝いのような生活活動の中の運動から始めることで、いきなり部活の質を求めるのはどうなのか。

委員：コロナ禍があったことは今の子どもたちにとっては大きいと思う。体を動かす機会は少なくなった。部活動で体を動かすということをやってきたが、それが変わっていくところなので、競技として勝つことを目指したい子もいるし、楽しみたい子もいる中で、どういう風に地域に展開していくのかは皆さんの意見をいただきながらまとめていくしかない。

委員：自校にない部活動を他校に行き行ってやるというのはどのような感じなのか？

委員：今は拠点校というシステムがある。学校の幅を超えて他校の部活動方針に従うというシステムである。例えば、長岡京市にラグビー部は長二中にしかないが、長二中が拠点校をやっているといえれば長四中の子も入部でき、大会にも出られる。ただし、長二中の選手として出ることになる。かつては他校の生徒が来ることでややこしいという声はあったが、他校から来る子は目的を持って来るのでしっかりしている。

委員：あと数年経ったら子どもの数はもっと減る。スポーツだけでなく文化でも人間が足りなくなる。将来は1人が複数の部活をすることや、複数種目できる環境を考えた方がいいだろうし、スポーツのシーズン制など色々なことを考えながら見方もアップデートしていかなないと、今ここですべての話は数年後に無意味になるかもしれない。古い話かもしれないが、部活動は教育の一環だと思っているので、個人的には部活というものは残したい。そのような融通性のある話はここでやっているとわからないが、今の形で考えても結局はフィットしない時代が来ると思う。

委員：時代の流れは速いので、今考えていることが1年2年で動くかということ、そのときにはもう遅いということもあるので難しい。今は中学校の部活動が中心になっているが、基礎体力をつけるには小学校と結び付けるような取り組みも大事になってくる。今話にも出たシーズン制も中学校までシーズン制でやらせて、高校からは自分でやりたいものをするというのも面白いと思う。

委員：2 ページの国の動向で、(改革実行期間は) 令和 8 年度から 1 0 年度を前期、令和 1 1 年度から 1 3 年度を後期として休日の部活動を段階的に移行、つまり休日は部活動させないみたいな方針になっている。しかし府のほうは様子見という感じ。長岡京市自体が方向性が定まっていないのに、部活動をなくす、残すでは話の方向性が全然違う。移行期間と言われた期間も結局有耶無耶で、前期後期で何をトータル目標にしているのかわからない。

事務局：本市では、やりたい子がいるが部活動がないところをターゲットに子どもたちの機会を与えようという方向で進んでいく。ところが教員の給与に関する法律である給特法が改正される。この法律ができれば平日は毎日 6 時には帰ってもらわないといけないので、土日のクラブ活動を教員が指導することは難しい。そのため兼業兼職で教員の立場ではない指導者としてやっていただくという風になる。国は令和 1 1 年度で土日のクラブは地域展開して、そこから平日について考えようと言っている。これは真剣に取り組まなければならないということで、この委員会を立ち上げた。

委員：この委員会の着地点がどこになるのかが一番大きな話題だと思う。土日の教員による指導はもうできない中で、どのように地域で抱え込んでいくのかを考えていくことになる。

## ② 今後の取り組み 事務局より説明

委員：部活動の地域展開を始める背景は教員の負担を軽減するのが始まりで間違いないか？

事務局：子どもの数が減り、部活動で団体競技ができなくなっている、子どもたちの文化・スポーツの機会を作ろうというのが一時的なものだったが、そこに働き方改革がくっついて少しややこしくなっている。本市としては働き方改革の影響が大きい。

委員：怠けている人は頑張れば残業は減るが、頑張っている人にもっと頑張らせたところで残業は減らない。国がもっと教員を増やさないといけないと思う。個人的には部活も立派な仕事だと思っているので、部活込みのワークスタイルをできるようにすれば地域展開について考えなくていいとも思う。そのようなことが国で検討されているのかどうかわからないので話が見えてこない。

事務局：給特法の中に教員の数を増やそうというのは定められたので今後はそのよう

に動くと思うが、ワークスタイルについて国は考えていない。

委員：そういうのも含めて考えてほしかった。先生は特別なものだと考えていただきたい。

委員：強く要望するわけではないが、アンケート調査で部活が土日休みになった時間を何に使っているのかまとめてくれるとニーズが読めるのではないか。

委員：時代の変化の中で子どもたちの要求はどういう風に変化してきたのかを解かなければならない。

事務局：アンケート調査についてはアンケート項目を提案して皆さんの意見を聞きながら新たにアンケートを取りたい。

#### 4 その他 事務局より説明

#### 5 閉 会